

# 社会人ドクター取得条件に関する アンケート調査結果

平成20年11月

(社)軽金属学会 人材育成検討ワーキンググループ

(社)軽金属学会では将来を見据えて軽金属(アルミニウム・マグネシウム・チタン)関連の技術者・研究者の育成に取り組むべく、総合計画委員会の下に人材育成検討ワーキンググループを設けて検討を進めてきております。その中で、各大学(大学院)が募集している社会人ドクターは、企業側からは高度な研究者・技術者を養成できる、大学側では研究が促進されるという、双方にとってメリットのある制度であると考えられます。

しかしながら現状、その内容が企業側に周知されておらず、本制度が十分に活用されていない面があると思われれます。そこで、本制度推進の一助として、大学院生受け入れ条件、博士号取得条件等について本会会員が所属する各大学院にアンケートをお願いしました。その結果、35の大学院専攻課程から回答を得て、了解を頂いてすでに本学会のホームページに掲載しております。ここに、各大学院専攻課程の了解のもと、便宜を図るため改めて印刷物として配布させて頂きます。本結果が皆様のお役に立ちますなら幸いです。

なお、本アンケート調査結果については、以下の点に留意ください。

- 1)掲載順は、国立大学法人、公立大学、私立大学の順とし、それぞれの区分の中で五十音順に配置してあります。
- 2)空欄は、アンケートに記入がなかったか、要望により公表を控えた部分です。
- 3)掲載内容は平成20年7月末日現在のものです。但し、本内容はあくまで参考として掲載したものであり、軽金属学会が責任を負うものではありません。詳細については募集要項をご覧になるか、各大学院専攻課程に直接お問合せください。

人材育成検討ワーキンググループ委員長  
茨城大学教授 伊藤吾朗

社会人ドクター取得条件に関するアンケート調査結果

平成 20 年 7 月末現在

項目	1	2	3
大学	茨城大学 大学院	岩手大学 大学院	大阪大学 大学院
研究科	理工学研究科	工学研究科	工学研究科
専攻	物質科学専攻	物質工学専攻	知能・機能創成工学専攻
問合せ先電話等	茨城大学工学部学務第一係 〒316-8511 日立市中成沢町 4-12-1 tel 0294-38-5222 fax 0294-38-5260	weldpm@iwate-u.ac.jp	office@ams.eng.osaka-u.ac.jp
受け入れ対象者の条件	以下のいずれかを満たす者 (a)修士の学位(外国の学位を含む)を有する者。 (b)24歳以上で(a)と同等以上の学力があると認められる者。 (c)外国の大学卒で(a)と同等以上の学力があると認められる者。	・修士課程(博士前期課程)修了者 ・24歳以上で修士同等の実績	・修士の学位又は専門職学位を有する者及び入学時までに取得見込の者 ・個別の入学資格審査により、上記の学位と同等以上の学力があると認めた者で入学時までに24歳に達する者 ・上記も含め募集要項に定める者
入学時期	4月と10月	・4月と10月	4月と10月
入学試験方法	面接のみ	・選抜試験と面接	筆記試験と口頭試問
試験科目など	なし	基礎科目(英語)と専門科目(金属・化学・機械など)、合計2科目	・専門科目(内容は志望研究室の教員にご確認ください。) ・英語(ただし出願時に TOEIC 証明書, TOEFL 公式スコア票, IELTS 成績証明書のいずれかを提出いただきます。)
面接	入学後の予定の研究テーマに関するプレゼン(15-30分)および提出書類に基づき、以下の項目を評価。 (a)研究テーマの構想を持っているか。また、その発展可能性は (b)これまでの研究及び業務上の実績、(a)との関連性 (c)主たる研究テーマに関する知識・研究経験、データの蓄積 (d)研究遂行上のアクティビティ (e)関連する分野における知識・研究経験 (f)単位取得の可能性 (g)所属企業への了解	修士論文のプレゼンを含み30分程度	原則として、修士学位論文に関する試問を含み30分程度
入学金	282,000 円(受験料 3 万円)	282,000 円	282,000 円(平成 19 年度現在)
年間授業料	535,800 円	535,800 円	535,800 円(平成 19 年度現在)
： 以外の必要な費用	決まりはないが、論文投稿料は企業側負担が多い。	なし	志望研究室に依存する(志望研究室の教員にご確認ください)。
テーマの設定	指導教員との合意が基本だが、企業のテーマを認めることが多い。	指導教員との合意が基本だが、企業のテーマを認める	志望研究室に依存する(志望研究室の教員にご確認ください)。
社会人ドクター生が学校(研究室)に来る必要がある最低日数	指導教員との合意による(決まりはない)。1日/月程度が多い。	会社の設備で研究する場合は2週に1日(あるいは月に2日以上)	志望研究室に依存する(志望研究室の教員にご確認ください)。
博士号取得に必要な条件	単位取得プラス査読付き論文 1 編およびその他(国際会議論文が多いが、他の査読なし論文でも何らかの方法で英語での発表能力があることが分かること)1編。上記論文はいずれも第一著者であること。	最低、査読付き論文を2編、うち英文を1編	専攻教授会の判断による(志望研究室の教員にご確認ください)。
社会人ドクター生として必要な期間	単位・論文数の条件が満たされれば1年以上2年半以下でよい(ただし査読付き論文数は、在学前を含めて3編以上かつ在学期間中2編以上、プラス上記と同じその他1編以上。いずれも第一著者)。長期履修制度もあり。	論文数の条件が満たされれば2年でよい	原則、最低3年、ただし期間短縮が認められる場合がある(志望研究室の教員にご確認ください)。
その他の条件等	なし。	なし	
社会人ドクター修了者の過去3年間の実績人数	2007年度:7名 それ以前不明	合計5名(2005年度0名、2006年度1名、2007年度3名)	合計(2005年度2名、2006年度1名、2007年度1名)
現在在籍している社会人ドクター生的人数	1年次:1名、2年次:0名、3年次:1名	合計3名(博士1年1名、2年1名、3年1名)	合計10名(博士1年6名、2年1名、3年3名)
企業への要望など		なし	大阪大学大学院工学研究科知能・機能創成工学専攻では、社会人に対する博士後期課程の門戸を広く開いています。ホームページ <a href="http://www.ams.eng.osaka-u.ac.jp/">http://www.ams.eng.osaka-u.ac.jp/</a> で社会人ドクターを含む入試に関する詳細な最新情報を掲載していますので、ご参照ください。

項目	4	5	6	7	8
大学	大阪大学 大学院	九州大学 大学院	九州工業大学 大学院	京都大学 大学院	京都大学 大学院
研究科		工学府	生命体工学研究科	エネルギー科学研究科	工学研究科
専攻	マテリアル生産科学専攻 (マテリアル科学コース)	材料物性工学専攻 物質プロセス工学専攻 (材料工学部門)	生体機能専攻	エネルギー応用科学専攻	材料工学専攻
問合せ先電話等		TEL:092-802-2985 FAX:092-802-2990 email:office@zaiko.kyushu-u.ac.jp		075-753-4871	
受け入れ対象者の条件	・修士課程(博士前期課程)修了者 ・本研究科において、修士課程修了者と同等以上の学力を有するものと認められた者	・修士課程(博士前期課程)修了者 ・本学府において、修士課程修了者と同等以上の学力を有するものと認められた者	・修士課程(博士前期課程)修了者 ・本研究科において、修士課程修了者と同等以上の学力を有するものと認められた者で24歳に達した者	・修士の学位を有する者 ・本研究科において個別の入学審査により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で24歳に達している者	修士課程(博士前期課程)修了者
入学時期	4月と10月	4月と10月	4月と10月	4月と10月	4月と10月
入学試験方法	選抜試験と面接	選抜試験と面接	面接のみ	筆記試験と面接	選抜試験と面接
試験科目など	英語および専門科目の2科目	過去の業績とこれからのテーマのプレゼンを30分+質疑応答	・口頭試問	・英語および専門科目 ・口頭試問	英語と専門科目(志望分野とそれに関係する分野の2科目)
面接	修士論文またはそれに代わる研究発表と質疑応答。	に面接を含む	修士論文などのプレゼン及び今後の研究計画を含み30分程度	修士論文のプレゼンを含み1時間程度	これまでの研究のプレゼンと試問。計25分。
入学金	282,000円	282,000円	282,000円	282,000円	282,000円
年間授業料	535,800円	535,800円	535,800円	535,800円	535,800円
：以外の必要な費用		特になし	なし	なし	特には無い。
テーマの設定		指導教員との合意による	指導教員との合意が基本だが、企業のテーマを認める	テーマ設定は各教員に依存する	テーマ設定は各教員に依存する
社会人ドクター生が学校(研究室)に来る必要がある最低日数		指導教員との合意による		指導教員との合意による	指導教員との合意による
博士号取得に必要な条件	査読付き論文を3編。	指導教員の判断による		指導教員の判断による。最終決定は教授会で判断される。	最終的には教授会の承認。指導教員に問い合わせられたい。
社会人ドクター生として必要な期間	・3年。 ・ただし、期間短縮の制度があり、実績もある。	短期修了のシステムがある	短縮修了のシステムがある	・3年 ・短縮修了も可	短期修了のシステムがある
その他の条件等				特になし	
社会人ドクター修了者の過去3年間の実績人数	合計15名(2005年度3名、2006年度5名、2007年度7名)	合計9名(2005年度4名、2006年度4名、2007年度1名)	合計5名(2005年度2名、2006年度1名、2007年度2名)	当専攻では0名	H17年度1名 (材料工学専攻分)
現在在籍している社会人ドクター生の人数	合計30名(博士1年9名、2年12名、3年9名)	合計16名(博士1年4名、2年7名、3年5名)	合計4名(博士1年2名、2年1名、3年1名)	当専攻では0名	計5名 D1 3名 D2 2名 D3 なし (材料工学専攻分)
企業への要望など			特になし	特になし	

項目	9	10	11	12
大学	千葉大学 大学院	電気通信大学 大学院	東京工業大学 大学院	東京工業大学 大学院
研究科	工学研究科		理工学研究科	総合理工学研究科
専攻	人工システム科学専攻 機械系コース	知能機械工学	材料工学専攻(金属材料分野)	材料物理学専攻
問合せ先電話等	http://www.eng.chiba-u.ac.jp/		http://www.mtl.titech.ac.jp	
受け入れ対象者の条件	出願資格認定を得れば修士課程(博士前期課程)修了者だけには限定しない	博士前期課程修了者の業績があると認められれば、学部卒でも可	修士課程修了者または企業で2年以上の経験があり、修士課程修了と同程度の学力があると認められる者	大学院修士課程修了者、または同等の学力があると認められる者
入学時期	4月と10月	4月と10月	4月および10月	4月と10月
入学試験方法	英語と口頭試問	面接のみ	面接のみ (TOEICなどのスコア参考)	英語筆答試験と口頭試問
試験科目など	英語と口頭試問(修士、またはそれまでの研究経過の発表、Dr入学後の研究計画)		なし	・英語筆頭試験ならびに面接試験 ・TOEIC, TOFELなどの外部英語試験が基準点を越す場合は英語試験免除。
面接	上記について発表30分、質疑10-20分	・修士論文のプレゼンを含み25分程度 ・今後の研究計画20分	修士論文内容および企業での研究内容と今後の研究計画(20~30分)	修士論文、博士課程での研究計画などを含み、30分程度
入学金	282,000円	約30万円	282,000円	282,000円(2007,2008年度)
年間授業料	535,800円	約50万円	535,800円	535,800円(2007,2008年度)
： 以外の必要な費用	なし	なし	なし。 なお、大学から授業料相当分の支援を受けられることもあるので、指導教員と相談するとよい。	特になし。
テーマの設定	指導教員との合意が基本	指導教員との合意が基本だが、企業のテーマを認める	企業での研究テーマを基本に、指導教員との相談により設定	指導教員との話し合いで決定。
社会人ドクター生が学校(研究室)に来る必要がある最低日数	特に定めていないが、平均して2回/週程度	指導教員との合意による	研究結果の解析・考察、研究の進展、研究論文の作成、研究室の輪講などに十分に対応できる日数。詳細は指導教員との相談による。	・指導教員との話し合いや研究スケジュールによる。 ・講究等、必修の講義があるので、詳細は指導教員とよく相談すること。
博士号取得に必要な条件	最低、査読付き論文を2編以上(ファーストオウサー)	最低、査読付き論文を4編		指導教員、審査員、専攻、教授会の判断により、博士に相応しいと認められること。
社会人ドクター生として必要な期間	特に定めておらず、「長期履修制度」もあるし、業績によっては1年間にての短縮修了もある。	短期修了のシステムがある	研究のまとまり、論文数などの条件が満たされれば、1年でも可。	・通常は3年だが、短期修了も可能であり、最低1年から取得できる。 ・3ヶ月単位で短縮や延長が可能。
その他の条件等	特になし		特にはない。ただし、事前に指導教員との打ち合わせは必要。	特になし。
社会人ドクター修了者の過去3年間の実績人数	(専攻全体ではなく)機械系コースのみ2007年度5名、それ以前は毎年数名		過去3年間で5名	合計2名(2005年度0名,2006年度0名,2007年度2名)
現在在籍している社会人ドクター生の人数	合計8名(博士1年3名,2年1名,3年4名)		合計3名(博士2年2名,博士3年1名)	合計8名(博士1年3名,博士2年3名,博士3年2名)
企業への要望など	特になし	企業は余裕がないのか知れませんが、落ち着いた研究がなされていないようです。大学院に3年間留学させて、集中させて研究をさせることも必要と思います。	・企業側の理解と支援が必要。 ・研究テーマや研究計画などを事前に指導教員と相談する。	・特になし

項目	13	14
大学	東京工業大学 大学院	東北大学 大学院
研究科	総合理工学研究科	環境科学研究科
専攻	物質科学創造専攻	環境科学専攻
問合せ先電話等	045-924-5448(専攻事務) email: entrance_exam@iem.titech.ac.jp (入試担当教員)	TEL:022-795-4504
受け入れ対象者の条件	大学院修士課程修了者,または同等の学力があると認められる者の条件	修士課程(博士前期課程)修了者またはそれに相当する研究歴を有するもの
入学時期	4月と10月	4月と10月
入学試験方法	英語筆記試験,および,口頭試問	入試群によって異なるが,材料系については期間短縮予定者は修士論文等のプレゼンのみ,通常は口頭試問と研究発表
試験科目など	・英語筆記試験 ・なお,スコアがある場合,TOEIC,TOFELなどの外部英語試験も考慮する.	一般専門試験では,物理,化学,専門科目(材料化学,材料物性,材料加工)が出題され,専門がこれらと異なるときには適宜試問内容を調整する.特定専門試験では修士論文またはこれまでの研究内容のプレゼン.英語は一般は TOEIC 等の外部試験結果を参照,期間短縮予定者は指導予定教員が経歴をみて採点する.
面接	修士論文,博士課程での予定する研究計画などを含み,30分程度	特定専門試験:修士論文またはこれまでの研究テーマに関するプレゼン 20分と試問 20分.期間短縮予定者は45分のプレゼンと20分の試問.
入学金	282,000円(2007,2008年度)	30万円
年間授業料	535,800円(2007,2008年度)	50万円
： 以外の必要な費用	・入学時に学生障害保険(数千円) ・授業料に関しては,本学では,大学から学生へ授業料相当分を支援する場合もあることなど,詳細は指導教員に問い合わせ相談して欲しい. ・共同・受託研究契約を結ぶ必要のある場合は,別途,研究契約が必要である.	なし
テーマの設定	・指導教員との相談で決める. ・企業のテーマと関連数ものも多いが,状況や指導教員により異なるので,事前に相談して欲しい.	指導教員との合意が基本だが,企業のテーマを認める.
社会人ドクター生が学校(研究室)に来る必要がある最低日数	・指導教員との相談や研究スケジュールによる. ・ただし,講義期間中は,通常,1日/週程度で必修講義がある. ・研究テーマ,会社の都合や研究室の予定なども含め,個々のケースにより異なるため,詳細は指導教員に相談して欲しい.	入試,博士セミナー(英語でのプレゼン),中間審査,最終審査の4回に加えて,4単位(2科目)の集中講義を受講するためにそれぞれ3日程度の来学が必要である.期間短縮予定者はこれまでの企業における研究成果をもとにして論文を作成するのが通例である.
博士号取得に必要な条件	学則第87条による	明文化された基準はないが,公表論文等に関する業績リストの提出を求められる.
社会人ドクター生として必要な期間	・通常は3年だが,短縮修了も可能であり,最低1年から取得できる. ・3ヶ月単位で短縮や延長が可能である.	・最短1年(期間短縮制度) ・期間短縮条件:査読付き論文(第1著者)が3編以上.
その他の条件等	・本専攻の社会人大学院プログラムは下記を参考のこと <a href="http://www.iem.titech.ac.jp/department/pdf/Dr_working_06-12.pdf">http://www.iem.titech.ac.jp/department/pdf/Dr_working_06-12.pdf</a> ・文部科学省グローバル COE「材料イノベーションのための研究教育拠点」プログラムによる新博士コース(プロジェクトマネージングコース/ナノマテリアルイニシアチブコース)がある. <a href="http://mat-gcoe-titech.jp/index_j.php">http://mat-gcoe-titech.jp/index_j.php</a> ・願書などの入試情報は,下記から入手できる. <a href="http://www.gakumu.titech.ac.jp/nyusi/">http://www.gakumu.titech.ac.jp/nyusi/</a> 願書は,11月(4月入学)と5月(10月入学)から配布される. 入学願書提出の締め切りは,4月入学の場合1月20日頃,10月入学の場合は6月20日頃である. ・専攻のHPを参考のこと <a href="http://www.iem.titech.ac.jp/index-j.html">http://www.iem.titech.ac.jp/index-j.html</a>	
社会人ドクター修了者の過去3年間の実績人数	合計5名 (2005年度2名,2006年度1名,2007年度2名)	合計30名(2005年度14名,2006年度7名,2007年度9名)
現在在籍している社会人ドクター生的人数	合計14名(博士1年6名,博士2年3名,博士3年5名)	合計35名(博士1年7名,2年8名,3年20名).長期履修制度があり,申請履修期間に基づいて,年度毎の授業料が減額される.
企業への要望など	・研究テーマや講義等,ケースケースで進め方が異なるため,事前に指導教員と良く相談して欲しい. ・希望教員が不明な場合など,入試担当まで気軽に相談して欲しい. email: entrance_exam@iem.titech.ac.jp	大学はどこも博士課程の学生獲得に苦慮しており,社会人ドクターの入学は歓迎される.

項目	15	16	17
大学	東北大学 大学院	徳島大学 大学院	富山大学 大学院
研究科	工学研究科		理工学教育部
専攻	金属フロンティア工学専攻 知能デバイス材料学専攻 材料システム工学専攻	知的力学システム工学	ナノ新機能物質科学専攻
問合せ先電話等	教務担当 022(795)7373 kyomu@material.tohoku.ac.jp		076-445-6701[教務]
受け入れ対象者の条件	修士の学位を有する者、または大学卒業後2年以上研究に従事し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者	・修士課程(博士前期課程)修了者 ・修士課程修了者に準ずるもの(審査有り)	企業などに勤務している研究者、技術者で所属長から推薦を受け所定の基準に該当する者
入学時期	4月と10月	4月と10月	4月と10月
入学試験方法	選抜試験と面接	口述試験のみ	口述試験と面接
試験科目など	英語(TOEFL 又は TOEIC スコア提出)および物理、化学、専門科目(材料化学、材料物性、材料加工)について口答試問(在学期間短縮の場合は免除)	研究業績書、修士論文、研究計画書、志望理由書の口述試験	志望する分野に関連する科目、学術論文、業績報告書、あるいは特許等の研究業績と、入学後の研究計画についての口述試験
面接	修士論文または研究内容のプレゼン及び質疑 (40分、在学期間短縮の場合は65分)	修士論文のプレゼンを含み1時間程度	内容は同上。概ね1時間。
入学金	282,000 円	282,000 円	282,000 円
年間授業料	535,800 円	535,800 円	535,800 円
： 以外の必要な費用	なし	ありません	入学時に保険料(数千円)
テーマの設定	テーマ設定は各教員に依存する	指導教員との合意が基本だが、企業のテーマを認める	指導教員との合意が基本。テーマ設定は各教員に依存するが、企業のテーマあるいは研究室のテーマを基礎とする。
社会人ドクター生が学校(研究室)に来る必要がある最低日数	指導教員との合意による	・指導教員との合意によるが、会社の設備で研究する場合は週に1日(あるいは月に4日) ・学校の設備で研究する場合は毎日	[授業] 規定単位に関する授業の履修。授業担当教員との相談に基づく。 企業の勤務状況を配慮して主に集中講義形式で実施。 [研究] 指導教員との合意により決定する。
博士号取得に必要な条件	後期課程に3年以上在籍し(期間短縮では1年)、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格し、研究科委員会にて終了認定を受けること。	最低、査読付き論文を1編、副論文を1編以上	
社会人ドクター生として必要な期間	3年であるが、短縮修了のシステムがある(1年で修了可能)。長期履修制度もある。	最低3年が必要	最低3年が必要であるが、論文数の条件が満たされれば飛び級制度の活用により2年も可。
その他の条件等	特になし。	特に無し	
社会人ドクター修了者の過去3年間の実績人数	合計27名(2005年度9名、2006年度11名、2007年度7名)	合計15名(2005年度4名、2006年度5名、2007年度6名)	2007年度1名
現在在籍している社会人ドクター生的人数	合計20名(博士1年15名、2年3名、3年2名)。期間短縮が多い。	合計14名(博士1年5名、2年6名、3年3名)	D3が3名、D2が2名(2007年度)
企業への要望など	積極的に受け入れています。		積極的に受け入れています。

項目	18	19	20	21
大学	豊橋技術科学大学 大学院	名古屋工業大学 大学院	名古屋工業大学 大学院	弘前大学 大学院
研究科				理工学研究科
専攻	機能材料工学専攻	機能工学専攻	物質工学専攻	機能創成科学専攻
問合せ先電話等				学務部入試課 0172-39-3973
受け入れ対象者の条件	本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したものと及び24歳に達するもののうち、同一の企業等に約4年以上正規職員として勤務し、勤務成績が優秀であると所属長により認められ、在職のまま入学を希望する者	修士の学位を有する者及び取得見込みの者。本学大学院において、個別の入学資格により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者。	修士課程(博士前期課程)修了者および本学大学院の入学資格審査(内容・時期については指導予定の教員にご相談下さい)に合格した者もしくは文部科学大臣の指定した者	学位(修士)取得者 または同等と認められる24歳に達する者
入学時期	4月入学、8月入学、12月入学	4月	4月	4月と10月
入学試験方法	筆記(英語等)試験及び口述試験	口述試験、修士論文等の審査及び成績証明書を総合して判断	口述試験、修士論文等の審査、成績証明書の書類審査	口述試験、研究に関するプレゼンテーション
試験科目など	学力検査(筆記(英語等)試験及び口述試験)、成績証明書、推薦書、提出論文及び研究業績の総合判定	口述試験 専門分野に関する知識と適正能力	なし	
面接	内容は、これまでの研究、博士での研究計画を含み、時間は指導教員に任されています	修士論文等についてのプレゼンテーション	提出された修士論文等についてプレゼンテーションを行い発表の内容、専門知識に関して質問を受ける。40分程度。	プレゼンテーション 30分程度
入学金	282,000円	282,000円	282,000円	282,000円
年間授業料	535,800円	267,900円×2=535,800円	535,800円	535,800円
： 以外の必要な費用	特に設備使用料などは存在しません。投稿料、共同研究経費など全く指導教員次第です。		なし	なし(学会費等の負担が生じる場合があります)
テーマの設定	おそらく教員の専門から外れるところは指導が得られないと思います。また、企業のテーマも一般に認められています。これらを含め、何ら規定はなく、指導教員によります。		テーマ設定は指導教員に依存する	指導教員にご相談下さい。
社会人ドクター生が学校(研究室)に来る必要がある最低日数	指導教員およびテーマによると思います。過去の例では、1年次は本学に全日滞在し、2、3年次は月1度程度とか、全学年通じて週に1日とか、高年次は月1度程度とか、様々な例がありました。		指導教員との合意による	指導教員にご相談下さい。
博士号取得に必要な条件		大学院規則第35条参照	最低ラインは査読付き論文数3編～5編の範囲で分野により異なる(予定の指導教員にお聞き下さい)	
社会人ドクター生として必要な期間	論文数の条件が満たされれば2年でよい。これもシステムではなく、指導教員の判断です。	大学院規則第35条参照	条件(論文数他)が満たされれば2年でよい(飛び級制度)	3年(修業年限の短縮制度あり)
その他の条件等	豊橋技術科学大学では大学院の修士課程、博士後期課程を対象に長期履修制度を導入しています。大学院レベルの教育・研究を希望する社会人の皆さんが、勤務等の個別事情に配慮した長期履修計画(最大6年)に沿って、博士の学位と職業上必要な高度専門知識を取得することができる制度です。各年度の授業料は期間に応じて安くなり、卒業までの授業料合計は3年の通常コースと同じになります。 入試出願資格:修士学位取得者(同程度の学力を有する者を含む)		名工大には社会人ドクターという制度はない。有職の学生という取扱である。	3年をこえる在籍期間の授業料軽減措置あり
社会人ドクター修了者の過去3年間の実績人数	毎年数名程度	2005年度 0名 2006年度 1名 2007年度 2名	2005年 2人 2006年 4人 2007年 0人	1名(2007年度)
現在在籍している社会人ドクター生的人数	D3:3名、D2:3名、D1:2名	1年 4名 2年 2名 3年 6名	1年 なし 2年 1名 3年 2名	計6名
企業への要望など				

項目	22	23	24
大学	北海道大学 大学院	室蘭工業大学 大学院	横浜国立大学 大学院
研究科	工学研究科	工学研究科	工学府
専攻	材料科学専攻	物質工学専攻	システム統合工学専攻(材料設計工学コース)
問合せ先電話等		kawasima@mmm.muroran-it.ac.jp	045-339-3817 工学研究院大学院係
受け入れ対象者の条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士課程(博士前期課程)修了者</li> <li>・その他、上記と同等の学力を有すると認める者(5つの種類あり、出願前に予備審査要)</li> <li>・出身大学不問</li> </ul>	社会人研究者、技術者等で企業等に正規職員として1年以上勤務する者、又は2年以上の社会経験を有する者で、(1)修士の学位又は専門職学位に相当する学位を有する者、(2)(3)(4)(5)省略、(6)本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学年の3月31日時点で25歳に達しているもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士課程(博士前期課程)修了者</li> <li>・大学卒業後2年以上研究に従事した者</li> </ul>
入学時期	4月と10月入学(年2回募集、6月中旬頃と1月初旬頃に応募締切)	4月と10月	4月と10月
入学試験方法	選抜試験(筆記)と面接(社会人特別選抜として別途実施している)	書類審査及び口述試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人特別選抜:面接</li> <li>・一般:学科試験と面接</li> </ul>
試験科目など	専門英語、専門科目(金属工学関係)と面接(口頭発表を含む)、合計3科目		英語、専門科目(数学、工業力学、機械力学、熱力学、金属自由電子論、金属組織学、材料力学、流体力学、材料物理学、結晶塑性学、鉄鋼・非鉄材料学から選択)
面接	修士論文や現在の研究活動等のプレゼンを含み30 - 50分程度	40 - 60分程度	修士論文等、研究計画のプレゼンを含み30分程度
入学金	282,000円	30万円弱	282,000円
年間授業料	年額535,800円(半年に分割)	50万円強	535,800円
：以外の必要な費用	とくになし 学会出張などは企業側負担もあり得る	特になし	なし
テーマの設定	テーマ設定は指導教員との合意が基本で、各教員に依存する	指導教員との合意が基本だが、企業のテーマが多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ設定は各教員に依存する</li> <li>・指導教員との合意のもと企業のテーマを認める</li> </ul>
社会人ドクター生が学校(研究室)に来る必要がある最低日数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社の設備で研究する場合は週に1日程度(あるいは集中して2ヶ月に一度とか)を目安に教員と相談</li> <li>・学校の設備で研究する期間は毎日も可能</li> <li>・教科の履修が必要(一部の単位はe-learningシステムにより自宅受講可能)</li> </ul>	指導教員との合意によるが、企業に勤務している場合は、かなりの自由度を持たせている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員との合意による</li> <li>・集中講義等も有り</li> </ul>
博士号取得に必要な条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最低、査読付き論文を3編(掲載許可論文を含めることが出来る)、1編はトップオーサーであることが望ましい</li> <li>・上記条件を満たしたとの指導教員の判断により学位授与審議委員会(教員12 - 14名程度、専攻外の委員1名以上)で審査される</li> </ul>		査読付き論文を2編以上
社会人ドクター生として必要な期間	論文3報以上、トップオーサーが2報以上、単位数、研究成果への学外からの高い評価、の4条件が満たされるとの審査の結果、1年半まで短縮が可能である。逆に職業を持つての学習であることから長期履修制度もあり、最大6年まで1年単位の延長可能(授業料は3年分を等分とする)	論文内容が優れていれば短期修了は可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TEDプログラム: 短期修了のシステムあり</li> <li>・PEDプログラム: 論文指導のみの早期修了のシステム(最短1年、論文博士に代わるシステム)</li> </ul>
その他の条件等			TEDプログラム/PEDプログラム募集案内パンフレットがあります
社会人ドクター修了者の過去3年間の実績人数	毎年2名程度	材料関連分野では1-3名/年	合計3名(2005年度2名、2006年度1名、2007年度0名)
現在在籍している社会人ドクター生の人数	合計7名、(D3:3名、D2:4名、D1なし)	入学後は社会人を区別していないので詳細不明。	合計5名(博士1年1名、2年2名、3年2名)
企業への要望など	積極的な応募を待っています。		各教員が相談に応じますので、お気軽にお問い合わせください

項目	25	26	27	28	29
大学	兵庫県立大学 大学院	足利工業大学 大学院	岡山理科大学 大学院	工学院大学 大学院	国士舘大学 大学院
研究科	工学研究科		工学研究科		
専攻	物質系工学専攻マテリアル・物性部門	情報・生産工学	システム科学専攻	化学応用学専攻	応用システム工学専攻
問合せ先電話等			入試広報部(代表) 086-256-8415	大学院課 03-3340-0784	
受け入れ対象者の条件	・修士の学位を有する者 ・修士課程を修了見込みの者 ・24歳以上で、出願資格審査で修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者(添付書類参照)	・修士課程(博士前期課程)修了者 ・修士の学位を有する者と同等の学力を認めた者	修士の学位を有する者	・修士課程(博士前期課程)修了者 ・上記と同等の学力と認められる者	(1)～(3)のいずれかに該当する者 (1)修士の学位を有するもの、または修士課程(博士前期課程)修了見込みの者 (2)外国において修士の学位に相当する学位を授与された者、または授与される見込みの者 (3)本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で24歳に達した者または達する見込みの者(事前に入学資格審査を受けていただく必要があります)
入学時期	4月, 10月	4月	4月と9月	4月と10月	4月
入学試験方法	・口述試験(研究計画書の内容について) ・英語記述, 面接(添付書類参照)	選抜試験と面接	筆記試験と口頭試問	社会人特別選抜として書類審査と口頭試問(面接)	・一般選考、社会人選考、留学生選考 ・学力審査、口述試験(面接)、成績証明書等の結果を総合して選抜
試験科目など	上記(添付書類参照)	英語	英語	なし	・一般選考、社会人選考は英語および口述試験 ・留学生選考は日本語および口述試験 ・語学試験は辞書の使用を認める
面接	研究計画書に基づいてプレゼンを行う。	修士論文の発表と博士後期課程での研究計画など	修士論文またはこれに代わるものについて口頭試問を行う	修士論文のプレゼンを含み50分程度	・修士論文の概要及び研究計画書に基づいて行なう ・専門分野に関連した質問を行なう ・一人30分程度
入学金	・県内 282,000円 ・県外 423,000円	20万円	免除	25万円	29万円
年間授業料	267,900円	101万円	免除	53万円	874,000円(一般) 611,800円(留学生)
： 以外の必要な費用	なし	なし	設備使用料として年間42万円 実験実習費として年間16.5万円	・設備使用料として年間25万円 ・実験実習費年間8万円	・施設整備費20万5千円 ・演習・実験実習費9万7千円 (以上は2008年度入学生の場合)
テーマの設定	企業のテーマを基本とするが、指導教員のテーマからかけ離れたものは無理	指導教員との合意が基本		指導教員との合意が基本だが、企業関連のテーマを認める	・指導教員との合意による
社会人ドクター生が学校(研究室)に来る必要がある最低日数		指導教員が認めた場合は学外で特別研究に関する研究を行える		指導教員との合意による	・指導教員との合意による
博士号取得に必要な条件		最近5年間に審査制度のある学会誌などに掲載された論文がある		最低、主著者としての査読付き論文を2編	・最低、査読付き原著論文を2編
社会人ドクター生として必要な期間	短期修了のシステムはあるが、3年目に修了とする場合が多い。	短期修了のシステムがある		短期修了のシステムがある	・課程による場合は最低3年が必要
その他の条件等					・課程によらない場合は、論文を提出して請求
社会人ドクター修了者の過去3年間の実績人数	?	なし(2000年度1名)		1名(2005年度)	合計2名(2005年度0名、2006年度1名、2007年度1名)
現在在籍している社会人ドクター生的人数	当部門に2名在籍 いずれもD3	なし		なし	合計2名(博士1年1名、3年1名)
企業への要望など				授業料負担が重いので、資金援助いただければ学位取得希望者が増加する	

項目	30	31	32
大学	芝浦工業大学 大学院	日本大学 大学院	日本大学 大学院
研究科	工学研究科	理工学研究科	生産工学研究科
専攻	地域環境システム,機能制御システム	機械工学専攻	機械工学専攻
問合せ先電話等	Tel 03-5859-7420 Fax 03-5859-7421		
受け入れ対象者の条件	修士課程修了もしくはそれと同等以上の学力があると認められた者で、かつ、職場の指導的立場にある者の受験承諾を受けた者	一定の条件を満たし、事前の書類審査を経て本大学院が認めた場合、大学を卒業していない者が博士前期課程へ、修士の学位を有しない者が博士後期課程へ出願することができます。 1. 大学を卒業し、2年以上経過した者 2. 学校教育法第68条の2第4項の規定により学士の学位を授与され、2年以上経過した者 3. 外国において、学校教育における16年の課程を修了し、2年以上経過した者 4. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了し、2年以上経過した者 5. 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、2年以上経過した者 6. 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了し、2年以上経過した者。 7. 文部科学大臣の指定した者で、指定された後2年以上経過した者 8. その他本大学院において、上記1、2のいずれかと同等以上の資格があると認められた者 入試の出願資格がホームページで公開されております。 <a href="http://www.cst.nihon-u.ac.jp/graduate_school/examination/03.html">http://www.cst.nihon-u.ac.jp/graduate_school/examination/03.html</a> こちらをご参照下さい。	大学、研究所等において2年以上研究に従事した者もしくは科学・技術関係の分野で2年以上の業務に従事している者で以下のいずれかに資格を有する者。 修士の学位若しくは専門職学位を有する者(外国において修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者) 文部科学大臣が指定した者(大学を卒業し、又は外国に於いて学校教育16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者。 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者。学士の学位を授与された後に、科学・技術関係の分野で2年以上の業務に従事し、かつ業務経験を証明する書類により修士の学力を有する者と同等以上の学力がある認められた者。
入学時期	4月と10月	4月ですが、大学院研究生は4月と10月が入学時期です。	4月
入学試験方法	面接のみ	口述試験：面接と試問(業績及び研究計画等について)	書類審査と口述試験
試験科目など	なし	筆記試験なし	筆記試験は時に課さない。
面接	修士論文のプレゼンを含み30分程度(プレゼン15分 口頭諮問15分)	事前に指導を希望する教員との間で綿密な打ち合わせが必要。面接は業績のプレゼンなどを含み30分程度。	試験者(複数)との面接,30分程度
入学金	260,000円	20万円	20万円(本学を卒業した者は免除)
年間授業料	496,800円	63万円	63万円
：以外の必要な費用	345,000円(実験研究料および維持料)	施設設備費30万円、実験実習費8万円、後援会費3万円、校友会費(準会員)1万円、	実験実習費 8万円 施設設備資金 30万円
テーマの設定	指導教員との合意が基本だが、企業のテーマを認める	指導教員との合意が基本で、研究室のテーマを基礎とするが、企業のテーマを認めることもある。	指導教員との合意が必要であるが企業のテーマを認める。
社会人ドクター生が学校(研究室)に来る必要がある最低日数		会社の設備で研究する場合は週に1日など、指導教員と相談の上決まる。	指導教員との合意による。(一般的には使用する実験設備等にもよるが、週1日程度)
博士号取得に必要な条件			
社会人ドクター生として必要な期間	最低3年であるが、優れた成績を上げたもの(論文の内容が満たされたもの)については、1年以上在学の早期終了制度あり。	論文数などの条件が満たされれば2年でもよい	優れた業績をあげた者は大学院に3年以上在籍(修士課程の2年を含む)すればよい
その他の条件等			受け入れ対象条件の , については事前の審査が必要。
社会人ドクター修了者の過去3年間の実績人数	合計10名(2005年度3名、2006年度2名、2007年度5名)	合計1名(2005年度1名、2007年度末に工学博士取得)	2005年度1名
現在在籍している社会人ドクター生的人数	合計21名(博士1年生6名、2年生4名、3年生11名)	合計0名	0名
企業への要望など		社会人大大学院制度について <a href="http://www.cst.nihon-u.ac.jp/graduate_school/parttime/index.html">http://www.cst.nihon-u.ac.jp/graduate_school/parttime/index.html</a> で公開しているので、これを参照するようにしてほしい。	

項目	33	34	35
大学	明星大学 大学院		
研究科	理工学研究科		
専攻	物理学専攻、化学専攻、機械工学専攻、電気工学専攻、建築・建設工学専攻、環境システム学専攻		
問合せ先電話等			
受け入れ対象者の条件	修士の学位を持ち、企業・官公庁等に在職中で原則として専攻分野に関連する2年以上の実務経験を有するもの	修士課程(博士前期課程)修了者	修士課程(博士前期課程)修了者
入学時期	4月	10月と2月	4月と9月
入学試験方法	物理・化学 面接のみ 機械・電気・建築・環境 小論文、面接	面接試験のみ	面接のみ
試験科目など	小論文		
面接	修士論文や研究計画書への質疑応答等	志望動機等を含んで30分程度	修士論文のプレゼンを含み30分程度
入学金	30万円	13万円	25万円
年間授業料	70.5万円	85万円	87万円。 ただし社会人ドクターの場合は1年間当たり奨学金73万円を学費納入後に支給。
： 以外の必要な費用	実験・実習費 9.5万円、保健・環境衛生費 5万円	教育充実費や実験実習費などで年間30万円程度	設備使用料として年間22万円
テーマの設定	指導教員との合意が基本だが、企業のテーマを認める	指導教員との合意が基本だが、企業のテーマを認める	指導教員との合意が基本だが、企業のテーマを認める
社会人ドクター生が学校(研究室)に来る必要がある最低日数	指導教員との合意による	会社の設備で研究する場合は週に1日(指導教員との合意による)	指導教員との合意による
博士号取得に必要な条件	3年以上在学し、専攻科目について必修科目を含む20単位以上を取得し、博士論文と指定された書類の提出及び審査料を納めた上で、学位論文審査及び最終試験に合格しなければならない	最低、査読付き論文を2~3編、(3編が望ましい、また英文1編を含むことが望ましい)	最低、査読付き論文を2~3編
社会人ドクター生として必要な期間	なし	論文数の条件が満たされれば2年でよい	論文数の条件が満たされれば2年でよい
その他の条件等	なし		
社会人ドクター修了者の過去3年間の実績人数	平成20年度より募集開始のため実績なし	合計1名(2005年度0名、2006年度0名、2007年度1名)	合計1名(2005年度0名、2006年度1名、2007年度0名)
現在在籍している社会人ドクター生の人数	博士1年2名	合計1名(博士1年0名、2年0名、3年1名)	合計6名(博士1年2名、2年3名、3年1名)
企業への要望など	特にありません	企業研究者であっても、ドクターを持つことが重要であることを認識して欲しい	